※令和４年度以降入学生用

学校番号	T0301

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「新　高校の数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の復習から学びなおし、基礎的な計算を確実に身につけることを目標にします。
　また、社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数理的に考察する技能を身につけます。
・わからないことはすぐに授業担当者に質問をしても構いません。わからないことをそのままにしておくことはやめましょう。
・授業に出席することが基本です。欠席が多いと授業内容を理解することが難しくなります。
・定期テストは授業内容を中心に出題されます。
・教科書とノートを使います。忘れずに持ってきて下さい。

２　学習の到達目標

数と式の計算、１次不等式、集合と命題についての基礎的な知識や技能を習得します。
また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。
さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式の計算、１次不等式、集合と命題における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式の計算、１次不等式、集合と命題における問題解決の結果や過程を考察し、判断することができる。	数と式の計算、１次不等式、集合と命題の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。また、振り返りを行うことで、考察をさらに深めることができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	数と式の計算	計算の基本 単項式と多項式 多項式の加法と減法 多項式の乗法 展開の公式 因数分解	a：数の計算，分数の計算ができる。計算の優先順位を理解し，その優先順位のとおりに計算ができる。指数法則を理解し，計算に用いることができる。単項式や多項式，次数，同類項について理解している。多項式の同類項をまとめ，次数の大きい順に整理することができる。多項式の加法，減法の計算ができる。展開の公式を利用することができる。因数分解の公式を利用することができる。 b：式の展開は分配法則を用いれば必ずできることを理解している。 c：多項式の情報を利用し、展開の公式について考察しようとする態度がある。 因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。	定期考査	定期考査 考察ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ﾉｰﾄ

※令和４年度以降入学生用

後期	１次不等式	根号を含む式の計算 実数 １次方程式 不等式 不等式の性質 不等式の解	a：根号を含む式の加法，減法，乗法が計算できる。また，分母の有理化ができる。平方根の意味・性質を理解している。有理数，無理数の定義や実数の分類について理解している。絶対値の意味と記号表示を理解している。方程式における解の意味を理解しており，１次方程式を解くことができる。不等号の意味を理解し，数量の大小関係を式で表すことができる。不等式が値の範囲を表すことを理解し，その範囲を数直線上に表すことができる。連立不等式を，数直線を用いて解くことができる。 b： 身近な問題を１次不等式の問題に帰着させることができ，問題を解くことができる。 c：１次不等式の解き方を１次方程式の解き方と比較し，共通点や相違点を見出そうとする。	定期考査	定期考査 考察ﾌﾟﾘﾝﾄ	提出ﾉｰﾄ
	集合と命題	集合 命題と集合 必要条件と十分条件	a：共通部分，和集合，空集合，部分集合，全体集合，補集合について理解している。反例の意味を理解している。命題を表す記号を理解し，命題の真偽を考察することができる。反例の意味を理解し，命題が偽であるこ	定期考査	定期考査 考察ﾌﾟﾘﾝﾄ 宿題	提出ﾉｰﾄ

※令和４年度以降入学生用

後期	集合と命題		とを示すには反例を１つあげればよいことが理解できている。 対偶の定義を理解し，命題の対偶を作ることができる。 十分条件，必要条件の定義を理解している。否定の意味及び否定を表す記号を理解している。 対偶の真偽はもとの命題の真偽と一致することを理解している。 ｂ：条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。命題の真偽を，集合の包含関係に結びつけてとらえることができる。 ｃ：十分条件や必要条件，及びそれらの使い方を日常生活の中に見出し，利用しようとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度